

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループ 清水興津の家		
所在地	静岡県清水区八木間町1846		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年11月10日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 10月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地の為、外の眺めも良く、散歩や外気浴の際も虫の声や川の流れる音に利用者さんたちも癒されている様子です。
 かかりつけの医師との関係もとても良好で、医師と連絡を密に取り、利用者さんたちの体調管理に努めていると共に、看取り介護も積極的に行なっています。
 経験のある職員たちにより、利用者さんたちが穏やかな最期を迎える事が出来るための環境作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設周辺は自然環境に恵まれ、遊歩道や公園が近くに整備され、春は桜、秋はみかんなど季節が感じられる。近隣の住民や民生委員とは、散歩で挨拶を交わしたり、果物の差し入れを頂くなどの良い関係を築いている。住宅地と離れているため、カラオケや歌のボランティアなどの音量も気を遣うことなく受け入れる事ができる。地域の防災訓練に参加した際、利用者が体調を崩した時も適切な対応をしてもらい、高齢者や事業所のことを認識してもらうきっかけとなった。理念の「その人らしく、ありのままに」を職員が良く理解していて、利用者は自分のペースで生活しているため、表情が穏やかである。かかりつけ医が24時間対応で、緊急時にもすぐに駆けつけてくれるので、安心して生活が継続できる。コロナ前は清水港に入港する豪華客船の年間予定をみて、希望があると車で見学に出掛けていた。職員間にはコミュニケーションが取れていて、働きやすい環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく ありのままに」という理念をもとに利用者様方にその人らしくゆったりと穏やかに日々を過ごしていただけるよう、理念を共にして実践につなげている。	管理者が代わると理念を変えていたが、現在の理念が職員に浸透していて、解りやすいので継続して使っている。職員は理念を理解していて、利用者のペースを大切に支援している。理念は目につくところに掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会でおこなわれた防災訓練に職員と利用者さんと共に参加したり、散歩時にご近所の方たちとあいさつを交わしたり、農家の方が育てた物を下さったりと、地域の一人として日常的に交流している。	自治会に加入しており、民生委員は毎回運営推進会議に出席し、機会があれば、事業所について地域住民に周知してもらっている。散歩に行くとき近所の人が声をかけてくれ、果物の差し入れ等もあり、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方の様子について伝えたり、自治会を訪れた際にも、どのような方が、入居できるのか等質問を受けて答えたり等地域の人々に向けて認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員や特養の看護師等が来られ、ホームの現状報告や起こった出来事等を報告し、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年間6回開催している。民生委員と地域包括支援センターの職員から積極的に意見があり、2時間にも及ぶ意見交換がなされた事もある。写真を見ながら、行事や生活の様子を伝え、入居者も参加している。議事録は職員全員に回覧し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の生活支援課の担当者と家に連絡を取り、事業所の実情やケアについて相談をしたり、反対に相談されたり等協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議議事録は介護保険課に持参し、生活支援課にも1ヶ月に1度は出向き、声をかけるようにしている。地域包括支援センターからは入居の相談など声をかけてくれる良い関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部からの指示により、身体拘束をしないケア内容も含めたAA課程という課題を職員会議で話し合い、職員会議に参加できない職員は、必ず目を通し、利用者様方に対して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束指針は整備されており、委員会は本部にあり、週に1度書類がファクシミリで送られてくる。2ヶ月に1度法人の地域責任者が訪れ、本部の方針の伝達と研修を行う。月に1度の職員会議でも法人の資料を基に研修を行なっている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	本部からおくられてくるAA課程の資料、朝礼の資料などを元に職員会議で話し合い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このホームでも数名、成年後見制度を活用しています。今後も利用者様やご家族が要望すれば活用できるよう支援していきま		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書、重要事項説明書について、利用者やご家族に丁寧に分かりやすく説明して、理解、納得してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回職員会議を行い、職員同士で問題点や提案などを話し合い反映させています。	家族の面会の時に利用者の様子を話し、家族の意見や要望を聞いている。運営推進会議で出た意見も知らせている。面会に来られない家族には電話で要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族が面会に来られた際は、利用者様の日常の様子、体調の変化などを報告し、ご家族の意見や要望を聞き受けるよう努力しています。	毎月、職員の都合の良い時に午後1時間位、会議を行なっている。日常の支援の中での職員からの意見は、申し送りノートで全職員が情報を共有している。	職員から家族に日常の様子やお知らせなどのお便りを発行したらどうかという意見が出ていて、管理者も必要性を感じているので実現できるよう取り組みに期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	労働生産改善委員会をもうけ、職員の提案を重視し、各自が向上心をもって、働けるよう職場環境条件の改善につとめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の更なるレベルアップのための研修はもとより、社外の研修にも参加できる機会をもうけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の方々との情報交換の場を設けるよう努力しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するに当たり、ご家族に、今まででの生活環境や様子など聞き、ご本人が安心して生活を送れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族・本人に見学してもらい、利用者様の生活の様子を見て頂き、要望があれば、受け入れ、不安を取り除くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の入渠までの経緯や既往症の情報を基に本人とご家族に喜ばれるサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる範囲の情報を収集して、それを職員全員が理解し、利用者様の思い添えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活での変化(体調・行動)を連絡し合い、面会時には、日常の様子など伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より会いたい人等の訴えあった時は、家族に連絡し、会える機会を作るように努めています。	家族の面会や外泊、外食などの外出支援もあり、知人が時々、面会に来てくれ、馴染みの方との関係継続も支援している。利用者からの兄弟に会いたいとの訴えにも家族に連絡し、支援している。コロナの前は定期的にボランティアが来てくれ、歌や楽器の演奏をしてくれていた。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたことで不穏になり、口論になりがちなのでその場の空気を察知して職員が間に入るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活の様子、受診での様子などをご家族に報告し、安心して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望、意向に添えるように努めている。ホームのルールにはずれてしまう場合は、だめと決めず話し合いを重ねて検討しています。	職員は利用者の話を注意深く聞くように心がけている。喫煙の希望などは職員で実現するように話し合いをしている。管理者は職員に思いやりや優しさを大切に支援するように指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームのルールにとらわれず、本人の要望に添った生活がおくれるよう職員間で意見交換をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今日できたことが、明日できたり、できなかったりその日の調子が激しく変動します。十分観察して、その時にあった過ごし方を見つけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の体調の変化に気を使い職員同士で話し合い、ケアマネに報告してより良い介護計画ができるよう努めています。	業務日誌に利用者の日常の様子を記入し、特記事項は申し送りノートで全職員が情報を共有し、カンファレンスは毎日職員で行なっている。看護師が月に1度来所し、全員を診ており、介護計画を作成する際に意見をくれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のほか申し送りノート等で小さな気づきを職員間で共有し介護計画の見直しに活かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議など広い範囲の情報を活用し取り組んでいます。終末期の看取りも行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人ひとりの性格・介護度などを理解した上で職員がサポートすることで穏やかな生活を送ることができる。季節ごとの行事の参加などで楽しみのある生活をおくれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診、週1回訪問歯科で定期的に見て頂いており、発熱など急変した場合はすぐに連絡して対応している。	事業所の近くの協力医が定期的に往診に来てくれ、内科以外の症状の相談にもものってもらえる。利用者の体調の変化にも24時間対応してくれる。希望者は週に1回訪問歯科医の診察を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が定期的に、一人一人と話しをし体調変化に気を配っている。異変がある場合は職員に受診するよう促している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診は往診体制とっているため、主治医との連携はうまくいっている。病院の入院は主治医経由、退院後のケアに関して助言を受けられる。 入居の際ご家族に終末期の看取りを行なっていることを説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事故の際は事故報告書を作成し、同じ事故が起きないように話し合っている。	契約時に重度化、終末期の方針について事業所から説明をし同意書もらっている。状態変化の時にはかかりつけ医が家族に説明をし事業所と話し合って改めて同意書もらう。かかりつけ医が24時間対応してくれるので家族や職員も安心して支援ができる。看取りについての研修も行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故起きた際は事故報告書を作成しその都度同じ事故が起きないように話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と部分訓練は数回行なっている。地域の防災訓練にも参加して地域との交流に力をいれています。	地域の防災訓練には管理者と利用者が参加している。年に2回事業所で火災地震水害で、日中夜間想定で訓練を行なっている。総合訓練と部分訓練があり、部分訓練は避難訓練のみである。職員連絡網が整備されている。備蓄は2~3日あり、6施設で連携し、備品リストは本部で管理し入れ替えも行っている。	民生委員が地域連携に尽力してくれているので、災害時の対応についても協力してもらえるように働きかけに期待します。長期停電の備えも法人と相談して整備してください。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれなれしい言葉はつつしみ、あまり丁寧過ぎないよう、一人一人に対応するように心がけています。	管理者が利用者に対して思いやりが大切であることを伝えているため、職員の対応は穏やかである。対応に問題がある場合は職員同士で指摘し、改善している。人格の尊重とプライバシーの研修は定期的実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく利用者様の希望をかなえられるよう支援し、言葉で表せない利用者様に対しては表情やしぐさで感じとり支援できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、週1回のカンファで利用者様のことを話し合い一人一人が過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問美容を利用、身だしなみには気分を害さないように、本人の希望に添えるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から希望を聞き、時折食材配達業者の献立の材料をアレンジして提供したりしています。下膳はできる利用者様が率先しておこなっています。	利用者様に年に1回食事についてのアンケートをとり、出された意見は参考にして改善している。1階と2階では利用者の状態や職員の考えが違うのでよりよい方法を模索して別の方法で食事の準備をしている。利用者の希望に添えるよう、おやつも手作りにし楽しみを作っている。食後の片付けは職員と利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の献立なので、栄養バランスはとれています。一人ひとりの状態に応じて、刻みなどにして支援しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者様には声掛けと見守りを行い、介助の必要な利用者様には職員が介助を行い清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄サイクルなどを職員が把握し必要に応じて、声掛け、誘導パット交換などを行っています。	排泄チェック表の記録を参考に、利用者の排泄のパターンに合わせて、トイレ誘導を行なっている。利用者は入居当初に比べて、トイレでの排泄ができるようになり、リハビリパンツやパットを使用する枚数が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分摂取や散歩や体操などで体を動かすことなどで働きかけています。重度の利用者様には医師に相談しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週4回実地しており、入浴拒否される利用者様は無理に勧めず日を改めたりしています。個々の状態によって清拭したりシャワー浴にしています。	浴室は広く、湯船も大きくタイル張りになっているので利用者は銭湯気分が味わえる。浴室の温度には気を配っている。入浴日は週に4回あり、週に2回は入浴してもらっている。お風呂好きな利用者は長湯を楽しんだり、冬はみかん風呂にすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ室内の温度調節を行い、一日数回換気し快適に過ごして頂けるようにしています。また、季節に応じて衣類や布団も取替えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の常用薬については全職員が把握しています。誤薬がないように服用時のルールを全職員が理解し実行しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中でテーブルを拭いてもらったり、洗濯物をたたんでもらったりと家事を手伝ってもらったり、10時にラジオ体操をしたり、散歩をしたり、レクリエーションをしたりし、喜びや楽しみのある日々を過ごして頂けるよう支援しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の思いを大切に、買い物や散歩等に出かけています。	事業所の周辺は交通量も少なく、田畑や果樹園が点在し興津川の川辺りに遊歩道が整備されているので、好んで散歩をする利用者が多い。散歩に出かけると近隣の住民と言葉を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、施設で管理しています。買い物などに出掛けるときは、職員が同行して、買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人に本人から自ら電話したり、かかって来たりしたときは、やり取りできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、リビングでテレビを見たり、話をしたりして思い思いに過ごせるようにしております。	車の往来が少ないので静かな環境で、窓からみかん畑が見える。居間にはテレビの前にソファが置かれ、職員との会話を楽しんでいる。利用者の中には職員と一緒に清掃を行い、掃除機をかけ生活リハビリにも繋がっている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、リビングでテレビを見たり、話をしたりして思い思いに過ごせるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談して、本人が使い慣れた生活用品、思い出品等を使用してもらっています。	居室は天井まである収納庫に衣類などがしまわれていて、すっきりと片付いている。位牌やタンスを持ち込んでいる部屋もある。読書が好きな利用者はベッドに横たわって本を読んでいたりと、部屋でゲームをされる方もいて好きなように過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事の手伝い、洗濯物たたみ、ラジオ体操などできることを行なって、生きがいのある生活を送ってもらっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループ 清水興津の家		
所在地	静岡県清水区八木間町1846		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年11月10日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202114-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 10月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地の為、外の眺めも良く、散歩や外気浴の際も虫の声や川の流れる音に利用者さんたちも癒されている様子です。
 かかりつけの医師との関係もとても良好で、医師と連絡を密に取り、利用者さんたちの体調管理に努めていると共に、看取り介護も積極的に行なっています。
 経験のある職員たちにより、利用者さんたちが穏やかな最期を迎える事が出来るための環境作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくありのままに」の理念を共有し一人ひとりの個性を大切にしつつ実践にむけ、努力に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、防災訓練など地域の行事に積極程に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地球の人々に貢献するために何かできの か職員 で話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回実施し、自治会役員や民生委員、地域類活、市職員の方々に参加して頂き情報、意見交換、助言を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密にとりながら、相互に協力しあい良い関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで本部より提供される資料を元に勉強会を開き話し合うなど身体拘束をしないケアを徹底しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで、本部より提供される資料を元に、勉強会など、虐待が見逃ごされることが無いよう徹底し、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設でも、成年後見制度を活用している利用者様もあり、今後とも活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、契約書、重用事項説明書について具体的にわかりやすく説明し、入居者様やご家族の不安や疑問点にも応じ、理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見、不満、苦情などを聞いた場合は、直ちに管理者に報告し、速やかに改善されるように配慮しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行なっていて、地域運営アドバイザーが2ヶ月に1度参加し、職員の意見、提案に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションをとり意見などを聞き、勤務状況などの把握に努めて職員から要望があればその都度意見を聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修に出来るだけ沢山の職員が参加できる機会を設けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者の方々との意見交換や交流の場を設けるよう努力しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り利用者様の要望に応じるためにも、ご家族にも協力して頂き、職員も日頃の声かけにより、安心を確保する関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡や面会の際に、ご家族の困っていること、不安や、要望などに耳を傾け思いを共有し、信頼関係を深めるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入渠の動機や既往症などをもとに、ケアプラン作成、サービス、の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	表情や仕草、話す言葉に耳を傾け、入渠者様の気持ちにできる限り寄り添い、生活を共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ、面会に来て頂いたり、遠方で来られない場合、手紙や電話で本人と話して頂くなど、本人とご家族の絆を大切にしよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に、できるだけ面会に来て頂けるよう、連絡をとり、面会に来られない場合でも、手紙や電話などで関係が続けられるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に間に入り、声掛け、利用者様同士のコミュニケーションがとれるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常の様子、行事、受診対応などの様子をご家族に報告し、安心して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の事を知り、希望、意見を聞きできる限り本人の意思に添いながら、その人らしい暮らしを続けられるよう支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から話を聞き、以前の暮らしがどのようなであったか、詳しく把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の得意なこと、出来る事を見つけ、それを毎日の役割として行ってもらっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員個々が気付いた利用者様の様子を皆で話し合い、意見交換をして介護計画を作成しより良いケアを目指しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の体調変化や小さな気づきなどを具体的に記録、介護計画の見直し活かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議や職員会議等で得たさまざまな情報を活用できる柔軟な取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して生活を送れるように一人ひとりに合ったケアを行なっていくようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度の往診のほか、急変時にすぐにDrに連絡し指示を仰ぐ様にしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的にカンファレンスを行い情報交換をす と共に職員全員が共有できるように心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に面会を行い、看護師やDrに利用者の状態を聞き、早期退院できる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会の際には、ご家族の考えや往診時のDrの意見を元に話しあうことで情報を共有し、支援できる様に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こった際には、応急手当など職員全員が対応できる様に取り組んでいます。事故報告書の作成をすることで再発防止に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行なうと共に避難経路の確認や職員間での話し合いを行い、いざというときのそなえをしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様の人格を尊重した声かけで対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや要望を聞き相談にのることで自己決定ができるように行なっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースで過ごすことのできる支援を行なうように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二カ月に一度の理美容を利用、利用者様のそれぞれの身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で、利用者様の好みを聞くなどして食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りのため、メニューが重複しないようにと共に栄養バランスにも工夫している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一度の訪問歯科による定期健診を行い口腔内を清潔に保つよう心がけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様の状態に応じた声かけ、トイレ介助を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、便秘が続く日には水分摂取の声かけすると共にDrに相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回ある入浴日には、季節や気温に合わせて、湯船やシャワー浴を行なっていますまた、利用者様の体調に考慮し清拭を行なうなど清潔に心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の性格を考慮し、室温や衣類の調節、声掛けを行い快適に眠る事ができるような支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を活用し、利用者様方が服薬している薬を職員全員が理解し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、テレビ鑑賞など個々の利用者様が楽しんで過ごせる事を提供して、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、外気浴や散歩にさそい、季節の変化を楽しんで貰えるようにしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は施設で管理しています。歯磨き粉などの購入の希望があれば職員による代理購入をおこなっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親族様からの手紙が届いた際は必ず相手の名前を伝え手渡しする 電話の要望があった際には直接話しできるように心がける		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室になっています。個々のプライバシーを考慮した空間を作り利用者様が好きな時間に居室で休める様になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やフロアで、テレビ鑑賞したり、利用者様同士で話や塗り絵などの趣味を楽しむ空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より使い慣れた家具やコップ、ハン等の生活用品を持ち込み安心して生活ができる様な生活空間を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の食事の他10時のお茶、15儀のおやつ等、時間のメリハリをつけた生活を送ることができる様声掛けを行なっています。		